

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立城北中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標や重点目標の達成に向け、各委員会・部会を中心に組織的な教育活動を行うことができた。 生徒同士の関わり合いを重視した教育活動、委員会形式による学校行事の運営等を通して、生徒の自己肯定感を高め、他者を思いやる豊かな人間関係づくりを推進することができた。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	夢の実現に向け、志と意欲をもって学び続ける生徒の育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを踏まえた学習指導の工夫・改善 自己肯定感を高め、他者を思いやる豊かな人間関係づくり 不登校生徒の減少に向けた教育相談、生徒指導の充実 特別支援教育の充実 家庭・地域・関係諸機関との連携強化
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○学びの質の向上	○「学び合い」の授業が楽しいと感じる生徒の割合83%以上 ○授業など、学習指導に満足している生徒の割合80%以上、保護者の割合70%以上	・校内研究で「学び合い」の考え方や実践等について研修し、授業改善を図る。 ・単元シートを活用し、見通しをもって学習を進めることができるようにする。 ・異なる教科担当でチームをつくり、相互授業参観や研究授業を行うことで、授業改善を図る。	A	・生徒アンケートの質問①「「学び合い」の授業は楽しい」、「先生の授業や学習指導に満足している」に対して肯定的な回答をした生徒は ①84%、②91%であり、ともに数値目標を上回った。また、保護者アンケート「本校職員の授業や学習指導に満足していますか」に対して肯定的な回答をした保護者は72%であり、数値目標を上回った。	A	・学校だけの取組では難しいため、保護者や地域の協力を得ながら進めてほしい。 ・特に3年生は、学期が進むにつれて、学習への意識が高まっていることがみられる。 ・職員の評価が高いのは素晴らしいと感じている。今後、より丁寧な学習指導を行うために活動に対して、意欲的ではない生徒の理由などを聞き、指導内容の充実を図っていただきたい。
	●心身の教育	○命を大切にすることや思いやりをもって生活していると回答している生徒80%以上 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上 ○不登校対策の充実	・道徳の授業を中心に、生徒同士の交流を大切にし、自己有用感を高める。 ・道徳科の授業づくりの充実に向けて、全職員で取り組む。 ・月に1回、全校生徒に生活アンケートをとり、生徒指導部会での情報共有を行う。 ・いじめ、いのちの講話を年間で8回、全職員で行う。 ・長期休業前にSNS等でのトラブルへの対応について全校集会の際に話をし、職員研修を行う。 ・学校行事や生徒会活動を通して、生徒の出席・役割を保障し、自己肯定感を高める。 ・職場体験や地域で働く人々などに関わる機会を設定し、系統的・連続的な「生き方」教育を実践する。 ・毎週1回「北辰タイム」(SST)に取り組み、人間関係づくりの強化を図る。 ・教育相談部会での共通理解・情報共有と、他機関との積極的な連携を図る。	A B A A	・97%の生徒が命を大切にすることや思いやりの気持ちをもって生活できていると回答しており、道徳教育及び道徳の時間で自己有用感を向上させる実践ができた。 ・79%の職員が道徳科の授業への取り組みの充実が図れていると回答しており、教科書の資料を基本に授業実践できた。 ・規則正しい生活習慣が身についていると考える生徒の割合は90%、保護者の割合も90%であった。定期的な放送や集会でも交通ルールやマナーについても厳守を呼びかけた。 ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に、88%の生徒が思うと回答していた。また、生徒会行事や学校・学年行事などで、自分たちでアイデアを出し合い、実行委員会形式で自主的に活動することに満足している生徒は95%であった。 ・「将来の夢や目標を持っていますか」に、肯定的な回答をした生徒は73%であった。 ・北辰タイムを通して友達との関わりを深めることについて、肯定的な回答をした生徒は97%であった。楽しみながら人間関係づくりができていた。 ・教育相談部会の時間以外にも情報交換をして共通理解を図ることで、生徒の状況に合わせて対応することができた。	A A A A	・思いやりを持つことや命の大切さについて、短時間の講話などを取り入れることで、更に意識を高めることができると思われる。 ・取り組み内容については、とても良いことである。更なる充実のため、満足できない生徒の声を聞き取り授業づくりに生かしてほしい。 ・早期発見がなされておらず、先生と保護者が目から連絡を取り、情報の共有ができていないと懸念している。今後も続けてほしい。 ・いじめに関しては、学校以外にもさまざまな原因があるため、職員に負担にならない様、場合によっては地域や保護者と協力しながら解決していくことも願う。 ・先生方による生徒への普段の声掛けの成果が表れていると思う。更に多くの生徒が自己肯定感を高めたい。 ・自己肯定感を高めることはとても良いと思う。それと同時に自己効力感も高められるように素直に、生徒とのコミュニケーションを多くすることで、一番高められるのではないかと思うので今後も続けてほしい。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	②生徒会委員会活動と連携し、生活習慣の改善に向けた意識の啓蒙を図る。 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・生徒会委員会活動と連携し、望ましい生活習慣についての認識を深め、実践できる工夫をする。 ・全職員による定期的な登下校指導や交通教室の実施により交通マナーの遵守を徹底する。	B	・大きな交通事故こそなかったが、数件自転車による事故が発生し、交通マナーの悪さを指摘する地域の声も届いている現状のため、交通教室だけではなく、生徒会と連携して具体的に、ルールや危険性を伝えていく工夫が必要である。	B	・生徒が自転車通学の際、友人と話すするため、並走して登下校している現状は分かれる。しかし、危険であるため、丁寧に指導してほしい。 ・自転車のルールについて、大人になった今でも分からないことがある。ルールでも(自転車にも)一旦停止をしないといけない等、学校だけではなく家庭でも指導してもらいたい声掛けが必要。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○職員間の連携促進	・定時退勤日、部活動休業日を設定する。 ・留守電(自動音声対応)への切り替えや、会議のペーパーレス化、健康観察アプリの導入を行う。 ・教員業務支援員の積極的、効果的な活用を促す。	B B	・部活のない水曜日を定時退勤日としているので確実に実施につなげる。時期により業務の軽重があり、特定の職員が遅くならないよう早めの帰宅を呼びかけている。業務が終了した者からの退勤や、年休が取りやすい雰囲気作りをしていて、取得率も増加している。 ・職員会議資料等のPDF化や電話の時間外音声対応やリバーの活用で電話対応が減少し、業務の効率化につながった。 ・課題は週に1回の定時退勤を心掛けている職員が58%にとどまっていることである。 ・組織的に業務に取り組んでいると考えている職員73%であった。業務は効率的に行われ、仕事の量は若干ではあるが減っているが仕事の負担感の軽減は十分ではない。 ・各種アンケートや集会のオンライン化、通知表の所見の工夫など勤務時間内に業務遂行できるように改善を図った。	B B	・職員の健康状態は、生徒への指導に直結するため、更なるケアを望む。 ・職員の働き方は、管理職の思いやりの声掛けをしてあげるのが大切だと思う。仕事に際しても協力できることは分担し、職員の心と身体のケアも心掛けてほしいと思う。 ・取り組みは進んでいるように感じるが、保護者や地域の協力を得て、改善を進めてほしい。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○個別の支援計画等を活用して生徒の特性を理解し、積極的に共通理解・共通実践を行った職員の割合85%以上	・支援を要する生徒の情報共有を組織的、継続的に行う。 ・学校生活支援員、特別支援学級支援員と連携しながら、きめ細やかな支援を行う。 ・巡回相談などで専門的な知識を得ると同時に家庭との連携を密にして、よりよい支援の在り方を模索する。	A	・職員へのアンケートの集約結果が86%であり、本校において共通実践を進めることができた。 ・毎週の学校生活支援員、特別支援員の報告等を通じて「困り感」のある生徒の状況を共有し、連携して対応することができた。 ・支援方法についてスキルが上がったと応えた職員が87%であり、研修の成果を実践に繋げることができた。	A	・特別支援学級の生徒だけではなく、普通学級の生徒にも「困り感」を持っている生徒がいるので、生徒の状態を把握して、より良い支援をしてほしい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の推進	○インクルーシブ教育に関する研修を行い、アンケートで実践できていると答えた職員の割合80%以上	・インクルーシブ教育に関する研修を開催し、教職員の理解を深め、実践する。	A	・職員へのアンケートにおいて環境づくりなどの関連する項目で87%であり、インクルーシブ教育が浸透していることが分かる。	A	・誰もが安全で安心して学べる学校づくりを勧めたい。 ・障がい者の両親に育てられた、私の経験から、インクルーシブ教育はメリット・デメリットがあり、生徒もそうですが先生方の理解を深めることが大切ですね。
	○小中連携の推進	○提示された学習課題に対して、自分の課題を設定し、自分一人もしくは仲間と協力して解決できたとアンケートで答えた生徒70%以上	・小中合同の課題解決に関する研修を行う。	A	・校内研を通して単元づくりや「めあて」の設定の工夫を行い、子ども達自身が自分の考えを深めたり広めたりすることができた。生徒に対する同様のアンケート結果からも92%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	・小学校との情報交換を密にして、生徒が分かる実感する授業をすすめてほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上について、学習内容の定着のため、まとめる時間をつくるなど、更なる支援方法を検討する。 健康・体力づくりについて、自転車通学の生徒に、生徒会と連携して具体的に交通ルールや交通事故の危険性を理解させる工夫をすすめる。 業務改善・教職員の働き方改革の推進について、定時退勤日の確保な実施はできているが、更に定時退勤日を増やすため、教育課程の精選などを行い、一層の意識付けをすすめる。 特別支援教育について、生徒の特性の理解に関する研修を行い、よりよい支援方法を構築する。
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------